2026年11月24日

各　位

令和アカウンティング・ホールディングス株式会社
代表者名　代表取締役社長　繁野　径子
（コード番号：296A　東証グロース）
問合せ先　常務執行役員業務管理部長　田口　英亮
TEL. 03-3231-1935

通期業績予想及び配当予想の修正(増配)に関するお知らせ

当社は、2026年11月24日開催の取締役会において、以下のとおり、最近の業績動向等を踏まえ、2027年３月期(2026年４月１日～2027年３月31日)の通期業績予想及び配当予想を修正することとしましたので、お知らせいたします。

１．通期業績予想の修正

(1)　当期の連結業績予想数値の修正（2026年４月１日～2027年３月31日）

	連結売上高	連結営業利益	連結経常利益	親会社株主に帰属する当期純利益	１株当たり連結当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円銭
前回発表予想（Ａ）	6,300	2,160	2,160	1,440	38.50
今回修正予想（Ｂ）	6,320	2,440	2,440	1,640	43.85
増減額（Ｂ－Ａ）	20	280	280	200	
増減率（　％　）	0.3%	13.0%	13.0%	13.9%	
（参考）前期連結実績（２０２６年３月期）	5,705	1,988	1,994	1,421	37.81
（参考）前期比増減額	615	452	446	219	
（参考）前期比増減率（　％　）	10.8%	22.7%	22.4%	15.4%	

（参考）業績予想修正に伴い算定したその他連結指標の当期見込みと前期実績

	２０２６年３月期（　実　績　）	２０２７年３月期（　予　想　）	増減
売上総利益率	58.2%	59.7%	1.5%
経常利益率	35.0%	38.6%	3.6%

(2)　修正の理由

売上高が順調に推移していることに加え、特に利益面において当初予想を上回る見込みとなりました。その主因は、前年より業務の効率化等を推進し、潜在的に存在している業務の消化能力を前年よりアップさせるという目標を掲げ、案件の消化スピードが大きく向上していることが継続的に寄与しているものと

考えております。

売上高については成長率(売上高伸長率)を毎年10%～15%と見込んでおり、当期も十分に達成できるものと考えております。役務提供完了のタイミングにより計上時期が変わるShort業務(契約期間の短いプロジェクトものの単発業務)は多少の四半期会計期間ごとのずれがありますが、例年通り第４四半期会計期間(１月～３月)に売上高が増加し、通期では予定通りの売上、予定を超える利益の計上を見込んでおります。

以上の見込みにつきましては10月の中間決算の報告とともに開示すべきでしたが、業績を予測するにあたり、グループ各社の契約等について成否を判断する必要性があったため、通期に関わる業績見込みの開示がこのタイミングとなりました。

当社の重要テーマである生産性の向上は、単なるコスト削減ではなく、事業規模を継続拡大させるための強力な成長基盤となります。有能な人材の採用・育成を緩めることなく、売上高の継続的な成長と、さらなる品質向上を両立させ、中長期的な企業価値向上に繋げてまいります。また、売上高の成長率については、中期経営計画に基づき、安定収益基盤の強化と高付加価値化を推進するとともに、AIの活用とM&Aの推進により成長を加速することで段階的に高めてまいります。

(3) 参考情報　グループ各社の現況と今後のアクションについて

①株式会社ミラクル経理

・ミラクルXについて

ミラクルX1は、AIの技術を利用して固定資産の資産判定を行う大企業向けのシステムであり、本年４月より令和アカウンティング・ホールディングス株式会社のクライアントを中心としつつ、新規の大企業クライアントにも多く引き合いをいただき導入を進めてまいりました。お陰様で2026年10月末現在、約50社に導入を検討いただいており、そのうち７社に正式導入を決定いただいております。今回の予想修正にあたっては現時点で確定している当期売上約2,000万円のみを織り込んでおりますが、導入を検討いただいているクライアントからの成約獲得により、2027年３月末までの５か月間においてもさらなる追加売上の計上が十分に期待できると考えております。

また、ミラクルX1は、追加機能として2026年９月に固定資産台帳及び償却資産税申告書システムをリリースいたしました。当該追加機能については現在試用期間として無料でご使用いただいておりますが、2027年の早い時期から有償での本格稼働を開始する予定であり、今期及び来期以降の収益拡大に寄与するものと見込んでおります。

ミラクルXシリーズは次のミラクルAを周辺から補完するシステムで、管理会計の要素が強いシステムです。そのうちのミラクルX1は主に大企業向けのシステムですが、ミラクルXは固定資産領域とどまらず、多様な管理会計システムの開発を進め、大企業に限らず中小企業を含むすべての組織体に利用されるシステムとなる予定です。今後の展開につきましては、詳細が固まり次第、追って開示いたします。

・ミラクルAについて

ミラクルAはミラクル経理の基幹システムです。すなわち、経理の核となるシステムであり、元帳や試算表から決算書、連結会計、税務申告書までを作成する会計システムです。当期より開発に着手いたしました。数多くある会計システムを長年にわたり実務で使用してきた経験をベースに、どのシステムよりも使い勝手がよく、価格面におきましても他社との差別化を図ることを目標として

開発してまいります。もちろんAIに関わる最新の知見を導入し、また経理システムには企業の重要な情報が多数存在することを念頭に、セキュリティにつきましても、高度化するサイバー攻撃に対して万全の対抗が可能となるような仕組みを導入してまいります。

今後のスケジュールといたしましては、来年4月に試作品をリリースし、まずは主に当社グループ内の実務において徹底した運用・検証を繰り返した後、遅くとも2028年４月までに正式販売を開始する計画です。当初は令和アカウンティング・ホールディングス株式会社のクライアントを中心に販売していきますが、中小企業を含むすべての組織体に対して販売を拡大させる予定です。具体的な販売戦略につきましては、今後順次開示いたします。

②令和ヒューマン・ファースト株式会社

同社は以下の３事業を展開しております。

・給与計算等人事コンサルティング事業

同社では従来より数十社の給与計算を受託しております。給与計算業務につきましては、クライアントから要請があったもののみ行ってまいりましたが、今後はグループ基盤を活かした本格的な営業活動を開始し売上高を拡大してまいります。あわせてM&Aを積極的に推進することで、５年後には給与計算等人事コンサルティング業務における売上高を20億円規模へと成長させる計画です。この飛躍的な事業拡大の中核となるのが、人事コンサルティング及び給与計算等に関わる独自システムの開発・販売と考えています。

同社はこれまで数多くの給与計算ソフトを使用してきた知見をベースに、今般、株式会社ZetaXと共同で次世代給与計算システム「ミラクルHR」の開発をスタートいたしました。「ミラクルHR」は、勤怠管理から給与計算、年末調整に至るまで一気通貫のシステムであり、AIを駆使することはもちろんですが、ユニークかつ個人情報を強固なセキュリティで守るシステムであることなどが主な特徴です。2027年４月には試作品を当社グループに導入して2028年１月より本格実装を開始する予定です。なお、自社利用に加えて、当社クライアントや中小企業を中心に広く導入を進めることで、さらなる売上増大を図ってまいります。

・人材紹介、派遣事業

当該事業につきましては、2025年度より本格的にスタートし、経理実務に関わる人材の派遣、紹介を行ってまいりましたが、現時点では派遣登録者数700名、派遣紹介人材数延30名と予定に満たない状況となっており、営業を強化しなければならないと思っております。

この成長を加速させる施策として、「集まれプロフェッショナル(略称:あつプロ)」をテーマに掲げ、独立した公認会計士、税理士、SE、及び経理実務経験者に登録していただき、同時にそれぞれの希望、ノウハウに合った仕事、企業をマッチングさせるシステムを株式会社ZetaXとともに開発し、2026年11月24日より運用を開始いたします。

このうち独立した公認会計士や税理士の皆様に対しては、「ミラクルA」「ミラクルX」「ミラクルHR」の販売代理店を委託する計画であり、全国に広がる会計事務所が各ソフトウェアの販売促進に寄与していただけると考えております。

・教育研修事業

教育研修事業は令和アカウンティング・ホールディングス株式会社において10年以上前から行っ

ている社内研修からスタートしております。その後年々研修メニューを増加させ、また社内だけでなくクライアントを中心に社外研修も増加させてまいりました。

2026年３月期においては売上高1,200万円程度の事業ですが、当期は研修メニューを倍増させており、来期以降は経理の範疇にとらわれずに例えばAI研修など、その時々のビジネスパーソンにマッチした研修を格段に増加させるとともに企業研修の数も大幅に増加させる計画であり、売上高も大幅な増加を目指してまいります。

なお、株式会社ミラクル経理及び令和ヒューマン・ファースト株式会社は、中期経営計画で記載の通り2030年度にIPOを目指しており、それぞれの事業計画につきまして、来春を目途に公表いたしたいと思います。

子会社IPOにつきましては、利益相反の懸念や人事権等、ガバナンスの観点から敬遠されることもありますが、シナジー効果が最大限に生かされるように配慮するとともに、もし懸念が残存する場合には、パーシャルスピンオフなども検討していく所存です。

２．期末配当予想の修正（増配）

(1) 修正内容

	１株当たり年間配当金（円）		
	中間	期　末	合　計
前回予想 （2026年９月14日）	16円50銭 （普通配当　16円50銭）	20円00銭 （普通配当　20円00銭）	36円50銭 （普通配当　36円50銭）
今回修正予想		21円00銭 （普通配当　21円00銭）	37円50銭 （普通配当　37円50銭）
当期実績	16円50銭 （普通配当　16円50銭）		
前期実績 （２０２６年３月期）	12円50銭 （普通配当　12円50銭）	20円00銭 （普通配当　20円00銭）	32円50銭 （普通配当　32円50銭）

(2) 修正の理由

当社は、株主還元を重要な経営課題と認識するとともに、エネルギー価格、為替、関税、あるいは景気、不景気などの外部環境の変動にほとんど影響を受けず業績が安定していることを背景として、普通配当について毎期継続して安定的に実施していく方針です。

単体配当性向80%を基本として、財政状態等を勘案し配当性向を毎期１%から10%の範囲で株主優待に代わるものとして上乗せすることにより、毎期単体配当性向81%から90%とすることを基本方針としております。

子会社である株式会社ミラクル経理においては、各システムの開発進展に伴い、開発費は前期に比較して大幅に増額しておりますが、AIエージェントの活用により従来に比して開発コストの圧倒的な圧縮に成功していることに加え、「ミラクルX」及びグループ各社の売上でコストを十分にカバーしております。これまでソフトウェア開発企業は先行投資により数年間以上赤字、無配を継続するケースが多くありましたが、ミラクル経理で大規模なシステム開発を継続しながらも着実に利益を創出し、親会社である当社として高配当を継続していくことを株主の皆様への責務と考え、ポリシーとしております。

2027年３月31日を基準日とする期末配当につきましては、上記方針のもと、基本分80%に株主優待分

５％を加えた単体配当性向85%を目安として、業績が順調に推移していること等を勘案し、前回予想の１株あたり20円00銭から21円00銭へ増額することといたしました。それに伴い、年間配当合計は36円50銭から37円50銭へ増額修正となります。なお、今後の業績の進捗等によって、期末配当のさらなる増配についても検討してまいります。

※配当性向の上乗せ分は、株主優待は利益の分配ではなく経費処理することに対する疑問に加え、配当であれば完全に株式数に連動することとなるため、株主の皆様には配当金をもって公平にその恩に応えることができると考え、決定しているものであります。

以上